

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100469		
法人名	有限会社 ライフ		
事業所名	グループホーム サンライズ		
所在地	高知県香南市野市町母代寺381-6		
自己評価作成日	令和3年9月14日	評価結果 市町村受理日	令和3年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外部交流の機会は減少しているが、感染予防対策を取りながら、人混みを避けてドライブ等を実施し、利用者が内に籠もらないようにしている。コロナの感染状況を見ながら、面会制限等の対応について定期的に法人内で検討を行っており、制限をかける際には家族に連絡し、利用者の生活状況をこまめに報告することで、現在の状態を知ってもらっている。

主治医、訪問看護、他医療機関とも連携してターミナルケアに対応している。家族には状態の変化等に関して緊密に連絡するよう努め、終末期になっても最期まで安心して過ごしてもらえる体制づくりをしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=3972100469-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和3年10月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あなたに出会えてよかったと思ってもらえる介護、地域のためにつくします」の二つの柱を理念に掲げ、努力を続けている事業所である。

コロナ禍にあって、感染予防対策の徹底を心がけながらも、利用者を閉じこもらせない日々を目指している。面会制限のある家族には定期的な電話連絡や、毎月発行の事業所便りでの生活振りを伝え、家族とのつながりを維持している。

職員は内外の看取りに関する研修を受け、協力医との連携体制も整い、訪問看護のバックアップのもと、本人、家族の希望に応じられる体制を整え、看取りの実績を重ねてきている。

輪番制の町内会長を現在務めており、毎月の各戸への配布資料を利用者と一緒に届けることで、地域の様々な情報を得る機会にもなっている。近隣住民には事業所の避難訓練に参加してもらい、緊急時には自動通報装置で近隣住民宅とつなが等の協力体制を整えている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一目で事業所の目標が分かるよう、表現に配慮した理念を作成している。理念を目に触れやすい場所に掲示し、事業所からも地域に積極的に情報発信している。	分かりやすい言葉の理念は、利用者や職員が日常的に使用する多目的室に掲示している。毎月の職員会で理念の実践について振り返ることが多く、実際のケアに結びつけるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で制限された中ではあるが、町内会に加入し、町内活動には積極的に参加している。地域住民が散歩時に声をかけてくれる等、交流を深めている。地域の一斉清掃、防災訓練等にも参加して、交流を深めている。	町内会に加入し、地域の一員としての活動や役割を積極的に担っている。コロナ禍にあつて、利用者の参加を控えている地域清掃活動等にも職員が参加し、交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の要請を受けて、認知症サポーター養成講座の講師を引受けているほか、機会ある毎に認知症について地域住民に説明したり、事業所見学や相談を受けたりして、認知症に対する地域の理解促進に努めている。コロナ禍で現在は休止中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での日頃の活動や運営状況を報告し、出席者の意見をサービス向上に活かしている。家族会での意見等も議題に取り上げ、協議している。コロナ禍で開催集合方式は取り止め、会議資料を送付し、意見を返信してもらって、運営に反映させている。	市担当者、家族、地域住民、消防署員、利用者代表、運営法人の他施設職員と、充実した参加者で活発な意見交換が行われてきた。事故報告の折は厳しい意見もあるが、家族の代弁と受け止め、改善対策に役立させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは常に連絡を取り合い、困難事例等の相談をするほか、運営推進会議の都度、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えている。	運営推進委員会や市主催の研修に積極的に参加しており、認知症サポーター養成講座講師を務めるなど、日常的に情報交換できる関係を築いている。入退所についても随時連絡を取り合い、協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の身体拘束廃止委員会で3ヶ月毎に話し合いの場を持ち、社内研修を行っている。	事業所内の身体拘束禁止委員会の委員長は役職者でない職員が務め、ケアで気になったことは些細なことでも話し合っている。不適切なケアだけでなく、話すトーンや対応する時の表情等にも注意を払い、利用者には不快な思いをさせないように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は勉強会に参加し、虐待防止マニュアルに沿って高齢者の虐待防止に関する理解を深め、遵守している。高齢者虐待防止委員会を立ち上げ、概ね3ヶ月に一度社内研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は、権利擁護に関する研修会に参加するとともに、事業所内での勉強会を通して制度への理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を十分に取り、丁寧に分かりやすく説明し、家族の理解と同意を得ている。入所後も利用者家族と十分に話し合い、不安や疑問点があればその都度説明して、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日頃の関わりの中で、家族とは面会時や家族会で意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見は職員会で話し合い、可能な限り対応している。第三者委員も設置し、事業所の介入しない話し合いの場を設け、出された意見は職員会で話し合って対応している。	家族会の開催は年1回だが、毎月全家族に用紙を送付して苦情や要望はないか確認をしている。出された意見は職員会で話し合い、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎月の職員会に参加して、職員の意見を聞く機会を設けている。主任制度も定着し、職員とのコミュニケーションを図り、運営に職員の意見を反映させている。	毎月の職員会に代表者、管理者が参加して、職員の日常のケアに関する気づきや意見を聞いている。昨年行ったリフォーム工事の際には、職員の意見を多く反映させ、利用者、職員双方に快適な生活環境が整えられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう、職員育成担当者を決めて個別の育成計画を作成し、資格取得の支援や、職能訓練を行っている。処遇改善加算活用によりキャリアパス制度を導入し、職員自らが設定した目標への取り組みや、介護技術、知識の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が外部研修受講できるよう研修案内を掲示し、勤務割りも配慮している。コロナ禍でリモート研修が増え、受講しやすい環境が整備され、負担軽減につながっている。受講内容は職員会で伝達講習を行い共有して、介護スキルの向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県域や、地域密着型サービス協議会、他施設との合同勉強会、市の情報交換会に積極的に参加している。他施設のバザーや催し物、親睦会等を通して相互に交流し、サービス向上に努めている。コロナ禍で現在は休止中。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、主任が入所までの間に数回本人と面談をして、入所時の不安を解消し、馴染みの関係を築きながら、安心してサービスを利用してもらえるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にケアマネージャーや相談員と一緒に家族と面談し、家族の求めていることを理解した上で支援内容を説明することにより、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にケアマネージャーや相談員と一緒に家族と面談し、家族の求めていることを理解した上で支援内容を説明することにより、信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は支援する側、利用者はされる側という意識を持たず、利用者と共に暮らす同士の関係を築く一方、利用者からは生活の知恵や、経験等を教えてもらっている。家事、趣味に利用者が自発的に取り組めるよう、声掛けをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月の事業所便りや面会時に本人の生活状況を説明している。本人、家族の思いを理解するように努め、職員間で情報共有している。本人、家族の希望には、可能な限り対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ時に自宅周辺を通るなどして、本人の思い出が途切れないよう支援している。	コロナ感染防止対策を取った上で、本人が希望する馴染みの理美容院に職員が同行し、継続利用を支援している。また、ドライブ等の外出時には利用者の自宅周辺を通ることを慣習として、利用者に話しかけ、思い出が途切れないように心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話をするのが苦手な利用者もいるが、他の利用者と上手く関わられるよう、職員が間に入り、世話をしてもらったときには感謝の言葉を伝え、利用者同士の望ましい関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族との関係を大切にし、入院先に見舞いに行ったり、葬儀への出席もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いが汲み取れるよう、本人に希望や意向を聞き、会話が困難な場合も表情等から読み取るよう努めている。また、家族からは生活歴を聞き取り、本人の意向に沿えるよう支援している。	普段の生活の中での何気ない言葉や、ジェスチャー、表情から、本人の今の思いを想像し、汲み取れるように努めている。家族来訪時には、家族の気持ちにも配慮しながら、本人の思いを伝えている。	コロナ禍で制約の多い中、一人ひとりのしたいことを把握して、事業所の中でも楽しみややりがいを感じられる工夫を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方を聞くことや、本人の普段の生活の様子から見てくることを把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に関する情報は、連絡ノートや記録、口頭で職員間で共有しているが、訪問看護師等の視点からもしっかりと聞き取り、広い視野を持つように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、本人、家族に思いや意見を聞くとともに、担当職員がプランを評価した上でアセスメント表を作成し、全職員でカンファレンスを行い、現状に沿った介護計画を作成している。	担当職員がアセスメントを行ったうえ、計画作成担当者が家族の意見要望も確認して、介護計画を作成し、職員会で協議している。3ヶ月毎の見直しのほか、本人の状況の変化に応じて随時見直しを行い、現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりのバイタル、食事、水分摂取量、排泄状況等を記録し、変化のあった際には、かかりつけ医、訪問看護師に報告して情報共有し、必要な介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な病院への通院、買い物、散髪等、家族と連携を取りながら代わりに付き添いを行う等、柔軟なサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、ボランティアの受け入れは現在見合わせているが、通常は、ハーモニカやギター演奏、傾聴ボランティアを受入れている。ボランティアとの関わりは介護計画にも反映し、刺激を受けながら、利用者が楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のほか、本人、家族の希望で以前からのかかりつけ医や専門医を受診しており、通院には家族のほか、職員が付添っている。	入所時に本人、家族の希望で協力医をかかりつけ医とした利用者は、月2回の往診を受け、家族には結果を報告している。家族同行で通院の利用者についても、状態に変化があれば職員が同行している。受診結果は個人記録に残し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護があり、利用者の状態の報告と相談ができています。看護師からは適切な指示を受け、必要な医療機関受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医の紹介で入院することが多く、病院関係者との関係も築けており、早期退院や退院後の事業所での対応等について、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りマニュアルに沿って、随時家族の意見を確認しながら、医師と連携して、安心して納得した最期を迎えられるように支援している。状態の見極めが難しく判断に迷うときは、職員は、時間帯を問わずいつでも主任、管理者に報告するよう周知している。	重度化した場合や終末期については、早い段階で家族、本人と話し合い、事業所でできる内容を説明しており、これまで複数の看取り実績がある。協力医や訪問看護のバックアップ体制も整い、職員は、内外の研修に参加して実践力を身につけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が対応できるように、電話器横にマニュアルを掲示し、手当、対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って定期的に消防訓練を行い、自動通報装置を近所の住民宅とつなぐ協力体制ができています。地域住民に避難訓練に参加してもらったり、緊急時には町内会に協力を依頼するなど、地域ぐるみで災害対策に取り組んでいる。	年2回、消防署立会いのもと地域住民の参加も得て火災訓練を行っている。自動通報装置は近隣住民ともつながり、協力体制が整っている。非常用食料も賞味期限管理がされており、備品はリュックサックに整えられて、人目につく高さの場所に置かれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助の際には、プライバシー保護のため居室入り口に衝立を置き、声掛けの際の言葉使いにも気をつけている。	職員は、排泄介助時の声かけや言葉使い、声のトーンに注意している。慣れ合いからつい強い口調になってしまうことがあれば、職員間で振り返りを行い、利用者を不快にさせない対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる利用者にはしっかり意向を聞き、自己決定できるよう支援している。意思表示が難しい利用者には、複数の選択肢を提案して、意向に沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調を考慮しながら、個々のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。外出時には、本人の意向を尊重し、季節に合わせてその人らしい身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配送されてくる食材で調理しながら、1日のメニューをボードに書き込み、メニュー内容が分かるようにしている。季節の野菜の下ごしらえを利用者と一緒にして、食卓に出して季節感を出している。	配送される食材を利用しているが、行事食や職員手作りのお弁当などで食の楽しみを増やしている。家族、近所からの差し入れの食材を調理するときには、利用者は、職員と一緒に下ごしらえをして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量を毎食記録し、体調不良時等には、栄養補助食品等でカロリー調整をしている。主治医と相談しながら、1日1リットルの水分補給を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けと見守り、介助により、利用者一人ひとりに合わせた口腔ケアをしている。異常が見られたりした場合には随時チェックし、かかりつけ医と連携して、治療にあたっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握し、排泄パターンに合わせて定時のトイレ誘導を行い、それ以外の時間帯にもパットを使用しないように前もって声掛けをして、トイレ誘導に努めている。	利用者の排泄状況やパターンを把握して個別の支援を行っている。尿意の状況を上手く伝える事のできない本人のサインを職員間で共有し、3時間毎の誘導も行いながら、排泄の失敗を少なくする支援に努めている。本人の不安解消や自信につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、食事面でも配送食により栄養の偏りをなくしている。便秘気味の利用者は、便秘の日数によりかかりつけ医に連絡して相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、入浴チェック表を見て偏りが無いよう、清潔保持の支援をしている。	週3回の入浴支援を目安にしているが、希望すれば毎日でも入浴は可能である。現在入浴拒否の利用者はいない。同性介助を行っており、利用者は入浴を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に配慮しながら、日中の活動を個々に計画し、生活リズムが整うよう支援している。体調管理をしっかり行い、室温湿度も季節に応じて管理して、快適な環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容等は、職員が把握できるようファイルしている。内容変更等は連絡ノートで情報共有し、記録等で変化を把握して、かかりつけ医、訪問看護師に報告、相談をしている。服薬支援時には、2人体制で声を出して間違いのないことを確認し、本人の飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意なことや趣味、知識を発揮できる場面をつくっている。それぞれ食器洗い、洗濯干し、洗濯たみ、調理作業をしている。作業後は職員が労を労い、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて個別に外出し、ドライブにも出かけ、気分転換を図っている。	コロナ禍にあって以前のように外出できないが、人込みを避けた時間帯に近くのコンビニで買い物をしたり、自宅近くを通るドライブ、玄関先での外気浴等、できることを見つけて、利用者を室内に籠らせない工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いのうえ、財布、現金を所持する場合には、所在、金額等を明らかにし、使った場合は領収書をもらい、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って、家族に連絡しやすい環境作りに努めている。毎年年賀状を出す支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の生活レベルに合わせて整理整頓し、衣替えは家族の協力を得ながら行っている。利用者とは密にコミュニケーションを取り、調理の合間に皆で歌を歌ったりしている。花を飾ったり、レクリエーションで作った飾り等を壁に飾ったりしている。コロナ禍で現在は休止中。	高台にある遍路宿をリフォームした、明るいリビングで、昔ながらの木で細工された壁面等が残されていて、懐かしい雰囲気が醸し出されている。昨年再度リフォームを行い、職員のアイデアが活かされ、廊下を広くするなど暮らしやすくなるための工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファ、椅子を置き、気の合う利用者同士や一人で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、一人ひとりの馴染みの家具等を置き、写真や飾り物でこれまでの生活の延長として過ごせるようにしている。	各居室は広々として明るく、本人の馴染んできたものが置かれ、家族の写真も飾られている。利用者一人ひとりの好みの部屋作りが尊重され、居心地よく暮らせる居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力が発揮できるか」を考慮して、利用者の立場に立って、自立した生活が送れる環境作りをしている。		

ユニット名:

空

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 大地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一目で事業所の目標が分かるよう、表現に配慮した理念を作成している。理念を目に触れやすい場所に掲示し、事業所からも地域に積極的に情報発信している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、行事や近隣との交流は少なかった。利用者の参加は控えられたものの、町内一斉清掃や防災訓練には職員が参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響により中止となったことが多かったが、普段は市の要請で認知症サポーター養成講座の講師を引受けているほか、高校からの介護実習を受入れている。講師としての派先では、感染予防対策を講じて対応した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での日頃の活動や運営状況を報告し、出された意見をサービス向上に活かしている。家族会での意見等も議題として協議し、サービス向上に活かしている。コロナ禍での開催中止中は、会議資料を送付し、意見を返信してもらい、運営に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは常に連絡を取り合い、困難事例等の相談をするほか、運営推進会議の都度、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の身体拘束廃止委員会を3ヶ月に一度開催し、身体拘束やそれにつながる不適切ケアがなかったか等の話し合いの場を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は勉強会に参加し、虐待防止マニュアルに沿って高齢者の虐待防止に関する理解を深め、遵守している。高齢者虐待防止委員会を立ち上げ、概ね3ヶ月に一度社内研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は、権利擁護に関する研修会に参加するとともに、事業所内での勉強会を通して制度への理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を十分に取り、丁寧に分かりやすく説明し、家族の理解と同意を得ている。入所後も利用者家族と十分に話し合い、不安や疑問点があればその都度説明して、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会の開催は見送っているが、カンファレンスや面会時、利用者の状態の電話連絡の際には、意見を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎月の職員会に参加して、職員の意見を聞く機会を設けている。主任制度も定着し、職員とのコミュニケーションを図り、運営に職員の意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう、職員育成担当者を決めて個別の育成計画を作成し、資格取得の支援や、職能訓練を行っている。処遇改善加算活用によりキャリアパス制度を導入し、職員自らが設定した目標への取り組みや、介護技術、知識の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でのリモート研修を取り入れ、できるだけ多くの職員が受講できるようにしている。受講費用は全額会社が負担し、支援している。研修内容については、伝達講習や研修資料の共有により職員のスキル向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県域や、地域密着型サービス協議会、他施設との合同勉強会、市の情報交換会に積極的に参加している。他施設のバザーや催し物、親睦会等を通して相互に交流し、サービス向上に努めている。 コロナ禍で現在は休止中。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、主任が入所までの間に数回本人と面談をして、入所時の不安を解消し、馴染みの関係を築きながら、安心してサービスを利用してもらえるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にケアマネージャーや相談員と一緒に家族と面談し、家族の求めていることを理解した上で支援内容を説明することにより、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にケアマネージャーや相談員と一緒に家族と面談し、家族の求めていることを理解した上で支援内容を説明することにより、信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は支援する側、利用者はされる側という意識を持たず、利用者と共に暮らす同士の関係を築く一方、利用者からは生活の知恵や、経験等を教えてもらっている。家事、趣味に利用者が自発的に取り組めるよう、声掛けをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月の事業所便りや面会時に本人の生活状況を説明している。本人、家族の思いを理解するように努め、職員間で情報共有している。本人、家族の希望には、可能な限り対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ時に自宅周辺を通るなどして、本人の思い出が途切れないよう、支援している。行きつけの美容院への送迎などの支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話をするのが苦手な利用者もいるが、他の利用者と上手く関わられるよう職員が間に入ったり、他の利用者の世話をしてもらった際には、職員から感謝の言葉を伝えて、利用者同士が支え合う関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族との関係を大切にし、入院先に見舞いに行ったり、葬儀への出席もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いが汲み取れるよう、本人に希望や意向を聞き、会話が困難な場合も表情等から読み取るよう努めている。また、家族からは生活歴を聞き取り、本人の意向に沿えるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方を聞くことや、本人の普段の生活の様子から見えてくることを把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に関する情報は、連絡ノートや記録、口頭で職員間で共有しているが、訪問看護師、ボランティアの視点からもしっかりと聞き取り、広い視野を持つよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、本人、家族に思いや意見を聞くとともに、担当職員がプランを評価した上でアセスメント表を作成し、全職員でカンファレンスを行い、現状に沿った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル、食事、水分摂取量、排泄状況等を記録し、利用者に変化があった際には、かかりつけ医、訪問看護師に報告と相談をして、ケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連携して定期的な通院、買い物、散髪等を支援し、代わりに同行する等、柔軟な支援とサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、外部ボランティアの受け入れは見合わせている。コロナ禍でも、個別でのドライブ、散歩などは継続して、利用者が刺激を受けながら楽しく暮らしてもらえるよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護師と連携し、利用者の状態や日頃の健康管理の気づき、変化などを伝達、相談をして、適切な医療が受けられるようにしている。家族が行いけない場合は、職員が同行している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護があり、利用者の状態の報告と相談ができています。看護師からは適切な指示を受け、必要な医療機関受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医の紹介で入院することが多く、病院関係者との関係も築けており、早期退院や退院後の事業所での対応等について、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りマニュアルに沿って、随時家族の意見を確認しながら、医師と連携して、安心して納得した最期を迎えられるように支援している。状態の見極めが難しく判断に迷うときは、職員は、時間帯を問わずいつでも主任、管理者に報告するよう周知している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が対応できるように、電話器横にマニュアルを掲示し、手当、対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って定期的に消防訓練を行い、自動通報装置を近所の住民宅とつなぐ協力体制ができています。地域住民に避難訓練に参加してもらったり、緊急時には町内会に協力を依頼するなど、地域ぐるみで災害対策に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、声掛けや言葉使いに気をつけ、排泄介助の際には、居室入り口に衝立を置き、利用者一人ひとりの人格を尊重して、プライバシーの保護に努めている。研修などにも参加し、意識の再確認ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる利用者にはしっかり意向を聞き、自己決定できるよう支援している。意思表示が難しい利用者には、複数の選択肢を提案して、意向に沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調を考慮しながら、個々のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の大半が、定期的な訪問出張美容室を利用しているが、馴染みの美容室にも行けるよう支援している。外出時に、は本人の意向を尊重して、季節に合わせて、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状態に応じてミキサー食等の対応をしている。また、時には弁当等で食事に変化をつけている。ご近所や家族から頂いた季節の野菜の下ごしらえを入居者と一緒にして、食卓に出して季節感を出している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の食事摂取量を毎食記録し、体調不良時には栄養補助食品等でカロリー調整をしている。水分補給は、主治医に相談しながら一日1200mlを確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりに合わせ、声掛けと見守り、介助で口腔ケアを実施している。異常が見られた利用者は随時チェックし、かかりつけ医、訪問歯科、馴染みの歯科医と連携して、治療にあたっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄状況を24時間体制で把握し、排泄パターンに合わせて定時のトイレ誘導を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、食事面でも配送食により栄養の偏りをなくしている。便秘気味の利用者は、便秘の日数によりかかりつけ医に連絡して相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、入浴チェック表を見て偏りがなく、清潔保持の支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に配慮しながら、日中の活動を個々に計画し、生活リズムが整うよう支援している。体調管理をしっかり行い、室温湿度も季節に応じて管理して、快適な環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、名前や日時の確認を職員2人体制で行い、本人に手渡している。介助が必要な利用者は職員が飲み込みまで確認し、きちんと服薬できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意なことや趣味、知識を発揮できる場面をつくっている。それぞれ食器洗い、洗濯干し、洗濯たたみ、調理作業をしている。作業後は職員が労を労い、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日光浴のほか、職員が付添って散歩をしている。コロナ禍で外食は実施できていないが、利用者の希望に沿ってドライブに出かけ、気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いのうえ、財布、現金を所持する場合には、所在、金額等を明らかにし、使った場合は領収書をもらい、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、家族や友人などに電話しやすい環境作りに努めている。毎年賀状を書いて、家族とのやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の生活レベルに合わせて整理整頓し、衣替えは家族の協力を得ながら行っている。利用者とは密にコミュニケーションを取り、調理の合間に皆で歌を歌ったりしている。花を飾ったり、レクリエーションで作った飾り等を壁に飾ったりしている。コロナ禍で現在は休止中。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファ、椅子を置き、気の合う利用者同士や一人で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、一人ひとりの馴染みの家具等を置き、写真や飾り物でこれまでの生活の延長として過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力が発揮できるか」を考慮して、利用者の立場に立って、自立した生活が送れる環境作りをしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない